

令和5年度 北九州市総合教育会議（第1回） 意見の反映状況

(◎：市長・教育委員共通、○：市長、●：教育委員)

【番号の意味】以下の①～⑤の約束に盛り込んだ箇所を灰色で着色

- ①全ての子どもにとって、「居心地のよい学校」をつくれます
- ②子どもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくれます
- ③誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進めます
- ④自律的で特色のある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高めます
- ⑤地域とのつながりの中で、社会全体で子どもを見守り支え、育てます

1 2040年の姿

◎2040年には未知の職種に挑戦するであろう今の子どもたちに対して、^①我々が枠にはめない方がよい。

●「ウェルビーイングの実現」をわかりやすく示せるとよい。

⇒大綱案

1～2ページ目に記載

2 子どもまんなか・ひとりひとりが主人公

◎「ひとりひとりが主人公」を実現するのは、簡単ではない。

○子どもが^②社会の構成員としてリスペクトされていることが大切。

●自分の人生を自分で生きるスキルとマインドの両方が必要であり、そのためには、社会に適応して生きていく力を身に付けることが重要。

③

3 こどもの意見の尊重、違いへの理解

◎子どもたちの思いを実現するには、^③多様性を尊重する環境が重要。

○多様性とは、外から「幸福」を定義されるのではなく、^②自分で決めること。本市は、^③多様性に対する包容力が強みである。

4 誰一人取り残さない学び

●子どもたちの特性に応じた幅広い支援は北九州市の特徴であり、^③さらなる充実に期待する。

5 レジリエンス

◎多様性のほか、^②レジリエンスも重要。「失敗力」や「苦悩する力」を身に付けるには、苦悩の中から次のステップに進めるような経験を積むことが必要。

◎1人で乗り越える力だけでなく、他人に頼る・頼られる力を自覚的に育むことが必要。

●^②レジリエンスの向上には、^②自分の身体を使って学びを深める^①ことが必要。学校の強みは、生身の身体で活動できること。

●子どもが頑張ったら、先生がほめるという方向付けが必要。

②

6 教職員

◎ゆとりを持って働けるなど、^④教職員のウェルビーイングの確保が教育の根本。

④

7 地域等との連携

◎人間同士のつながりの中にある^①安心感・承認感・肯定感が大事であり、その根底には

①「安全・安心な居場所」があること。

○自治会・地域とも連携し、学校が「膨らみのある巢」のようになれるとよい。

⑤